平成２４年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成24年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1　資料収集……

(1) 新規収集資料

(2) 保存管理

Ⅱ　調査研究事業

1　調査研究…… 4

(1) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究

(2) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測

2　共同研究及び調査研究の協力…… 5

(1)コア・サイエンス・ティーチャー養成

Ⅲ　教育普及事業

1　展示…… 5

(1) 常設展示

(2) 企画展示

(3) 移動展示

2　教育普及活動 …… 10

(1) 学習会等の開催

(2) 学校との連携、融合

(3) 学芸員実習の受入

(4) 山岳図書資料館の利用

(5) 共催事業

(6) 各種観察会・学習会の協力

(7) テレビ・ラジオへの出演

(8) 収蔵資料などの貸出

3　執筆・出版…… 20

(1) 出版

4　インターネット・ウェブサイト報…… 22

(1) 公式ウェブサイト

(2) 外部ウェブサイト

5　広報…… 22

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図

6　友の会…… 23

(1) 組織

(2) 運営部

(3) 編集部

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

(5) サークル活動

7　ライチョウ会議…… 25

(1) ライチョウ会議

(2) 第13回ライチョウ会議岐阜大会

8　ボランティア活動…… 26

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1　動物飼育繁殖…… 26

(1) 希少野生動物繁殖

(2) アルプス動物園交換動物

(3) 傷病鳥獣救護

2　植物栽培繁殖…… 28

(1) 栽培植物

Ⅴ　その他

1. 各種委員などの委嘱…… 29

2. アルプス動物園との友好提携協定の締結…… 29

3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 29

Ⅵ　運営

1　組織および職員構成…… 30

2　協議会…… 31

3　耐震診断…… 31

4　アルプス動物園創立50周年記念式典への参列…… 31

5　入館者状況…… 34

6　平成24年度予算・決算…… 36

Ⅶ　関係条例・規則等

1　市立大町山岳博物館条例…… 37

2　市立大町山岳博物館規則…… 39

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 41

Ⅷ　施設

1　市立大町山岳博物館創立60周年を機に　42

2　平成24年度からの市立大町山岳博物館　42

3　平成24年度からの山岳博物館の基本方針…… 42

Ⅸ　施設

1. 敷地面積…… 45

2. 本館建物…… 45

3. 付属施設…… 45

4. 本館平面図…… 46

5. 付属の建物図…… 47

Ⅹ　利用案内…… 47

平成 24 年度の活動から

館 長　宮野 典夫

平成 24 年 4 月 20 日に山岳図書資料館が開館しました。この施設は平成 23 年に長野県山岳協会が創立 50 周年を、また、市立大町山岳博物館が 60 周年を迎えるにあたり両者の記念事業のひとつとして実施したものであります。同協会からは貴重な山岳図書資料と多額のご寄付をいただき、開館することができました。開館当時の収蔵は約 16,800 点で、年間 163 人の方が閲覧においでくださいました。その後も協会をはじめ、各方面から山岳に関する図書類の寄贈をいただき、平成 24 年度末には約 27,700 点となりました。貴重な山岳資料の散逸を防ぐ当初の目標をこれからも引き継ぎ、これらの資料を多くの方に活用いただきたいと考えております。また、図書資料以外にも登山用品や岩石、化石などの寄贈もいただきました。いずれも山岳博物館にとっては貴重な資料でございます。これら資料も教育普及や研究の対象として活用するとともに現状を維持して保管してまいります。

企画展示ではスイス政府観光局と市立大町山岳博物館との共同企画展として「スイス山岳観光の黄金期と日本人－その魅力と文化を伝えた人々－」を 7 月から 10 月までのロングランで開催しました。この企画展はユングフラウ鉄道全線開通 100 周年にあわせたものです。また、信州大学山岳科学総合研究所と市立大町山岳博物館との共同企画展として「大地はなぞだらけフォッサマグナ・北アルプスおいたちのなぞ」を 10 月から 12 月まで開催しました。両企画展とも関連したミュージアムトークや学習会を行い、見るだけの企画展だけでなく、参加する企画展となったことは評価すべきことと感じました。

教育普及活動では、恒例の春の写生大会が児童・生徒数の減少もあり、参加者の増加が見込めない状況下で約 100 人の方が動物を画材に一生懸命描いていました。この写生大会に合わせて付属園の動物観察ツアーやスタンプラリーを行い、身近な動物を理解していただく機会を設けました。

「さんぱくこども夏期だいがく」も市立大町山岳博物館独自の子ども向け学習会として定着してきた感があります。これからも充実した内容で続けていきたいイベントです。

学校との連携・融合事業は当館にとっては地域に根差した博物館の役割としては、重要な位置を占めていると感じています。特に学校との連携授業は昨年度までの大町南小学校とのモデル事業を発展させ市内 6 校の小学校に投げかけたところ 5 校が当館で理科の授業をしていただきました。このほかにも社会科や総合的な学習、職業体験を通して多くの児童・生徒が当館とかかわっていただきました。

電話や窓口でのさまざまな問い合わせや、市民団体などからの要請に応えての各種観察会や学習会におきましては学芸員や専門員が講師として活躍し、市民との対話の中で生涯学習の一翼を担っています。

当館の事業を推進するにあたり、多くの方々にお世話になり、お礼申し上げますが、本文中のお名前の敬称を、大変失礼ではありますが省略させていただきました。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1　資料収集

(1) 新規収集資料

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間に、寄贈・購入・製作によって次の資料を収蔵した。

① 寄贈による収集資料

内訳は、山岳資料・図書資料（人文科学系）23 件 6,254 点、動物資料 1 件 1 点、岩石・化石資料 1 件 16 点である。

№.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住　所
1	4 月 20 日	山岳図書等	5,466 点	長野県山岳協会	長野県塩尻市
2	5 月 16 日	ニホンカモシカ毛皮	1 点	個人	長野県大町市
3	5 月 29 日	美術図書	7 点	個人	長野県大町市
4	5 月 29 日	岩石	16 点	㈱塩の道博物館	長野県大町市
5	5 月 31 日	登山用品	17 点	個人	長野県大町市
6	6 月 5 日	山岳図書	1 点	個人	長野県大町市
7	6 月 6 日	山岳図書等	14 点	個人	長野県茅野市
8	6 月 26 日	化石	2 点	個人	長野県大町市
9	7 月 2 日	登山用品	1 点	個人	東京都練馬区
10	7 月 6 日	山岳図書	1 点	個人	新潟県中魚沼郡津南町
11	7 月 15 日	美術図書	1 点	個人	神奈川県鎌倉市
12	7 月 22 日	登山用具	1 点	個人	長野県安曇野市
13	8 月 5 日	登山用具	1 点	個人	兵庫県川西市
14	8 月 8 日	山岳図書	4 点	個人	長野県安曇野市
15	8 月 14 日	登山用具	1 点	個人	神奈川県横浜市
16	8 月 14 日	登山用具	1 点	個人	奈良県奈良市
17	8 月 21 日	登山用具	14 点	㈱モンベル	大阪府大阪市
18	8 月 29 日	登山用品	2 点	個人	奈良県奈良市
19	11 月 9 日	登山用品	1 点	個人	大阪府大阪市
20	12 月 14 日	山岳 DVD	1 点	個人	長野県松本市
21	12 月 28 日	山岳図書	473 点	個人	愛知県名古屋市
22	3 月 22 日	登山用品	1 点	個人	東京都町田市
23	3 月 22 日	山岳図書	102 点	個人	埼玉県蓮田市
24	3 月 23 日	山岳図書	43 点	個人	奈良県奈良市
25	3 月 25 日	山岳図書	27 点	個人	神奈川県横浜市
26	3 月 25 日	山岳図書	77 点	個人	静岡県熱海市
27	3 月 31 日	図書資料	40 点	個人	奈良県奈良市
28	3 月 31 日	図書資料	9,019 点	長野県山岳協会	長野県塩尻市

② 購入・製作による収集資料

内訳は、化石資料 3 点、哺乳類剥製標本 3 点、鳥類剥製標本 12 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	金額	入手・製作先
1	4 月 1 日	剥製標本(ツキノワグマほか)	15 点	2,215,500 円	製作:尼ヶ崎剥製標本社
2	2 月 26 日	化石(ケナガマンモス・魚)	2	277,000 円	購入:ゼネラルサイエンスコーポレーション
3	2 月 28 日	化石(直角貝・ゴニアタイト)	1	60,000 円	購入:アトミック　ソウル

2　資料保存管理

(1) 収蔵資料

① 自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系　　合計　11,618 点	
菌類(液浸標本)	129 点	哺乳類(剥製・骨格標本)	237 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	鳥類(剥製標本)	651 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	昆虫(標本ドイツ箱)	166 点
維管束植物(さく葉標本)	＊6,000 点	昆虫(未標本作製資料を含む)	＊1,000 点
魚類(液浸標本)	62 点	昆虫(液浸標本)	27 点
両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝・甲殻類(液浸標本)	13 点	岩石・化石	2,477 点

② 人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系　　合計　8,994 点	
山岳	7,158 点	寄託(山岳、美術)	513 点
美術	188 点	(寄託内訳)	
民俗	928 点	個人寄託　255 点	
歴史	49 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係)　93 点	
考古	158 点	団体寄託　165 点	

③ 本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系　　5,478 点	
自然科学系一般図書資料	5,322 点	自然科学系一般ＡＶ資料	156 点

④ 山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系　　27,651 点	
人文科学系一般図書資料	22,121 点	人文科学系一般ＡＶ資料	212 点
山岳資料としての図書資料（注 [1]）	5,318 点		

（注 [1]）図書資料 5,318 点は②人文科学系の山岳資料 7,158 点に含まれている。

⑤　収蔵資料の点数

総計 48,423 点（平成 25 年 3 月 31 日現在）

⑥　現状と課題

中長期を見据えた主体的・積極的な資料の収集計画が明確ではなく、またそれに伴う具体的な予算処置を行っておらず、現状として資料収集の方法は相手方からの資料寄贈・寄託の申し出に依存している状況である。

a．自然科学系

地質分野の岩石・鉱物・化石、動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されている。

b. 人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、図書資料・二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として、資料整理用紙をもとにした収蔵資料目録の作成を行う。

本年度、山岳資料・民俗資料の記録写真ネガフィルム（35 ㎜カラーネガフィルム 131 本・約 3,600 点分）のデジタルデータ変換（CD への書き込み）を業者に依頼して実施した。これらの写真は、平成 15 年度緊急雇用対策事業で雇用した専任の臨時職員によって撮影されたもので、デジタルデータ化することによって資料画像検索が容易になり、収蔵資料に関する各種照会や資料確認において迅速な対応が可能になる。

なお、山岳資料の収集方法について、特段の予算処置を行っておらず、これまで寄贈・寄託の申し出を受けて収集にいたる場合が主であるが、情報収集した個人や団体所蔵の山岳資料等について、所蔵者へ寄贈いただけるように今後も継続して積極的な働きかけを行い、資料収集機会の充実に務めていきたい。

(2) 保存管理

本館における資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中である。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を展示室 7 回、収蔵スペース 5 回の燻蒸を実施した。

現在、資料の保存環境は好ましくない。ＩＰＭ（Integrated Pest Management）＝総合的有害生物管理に移行させるため、館内への有害昆虫類・塵などの侵入対策として、一部館入口扉の改良工事を今年度計画していたが、建物の耐震診断の結果をみてからの施行なり延期となった。展示ケースや収蔵スペースの床壁面を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が課題である。

山岳図書資料館は気密性の高い構造であり、入口に前室があることで昆虫類の侵入を防ぐことができる。また、除湿器が設けられていて約 65%以上になった場合には自動的に除湿が開始される。資料の搬入前には、浸透性の高いフッ化スルフリル系製剤（ヴァイケーン薬剤）により 24 時間の包み込み燻蒸を行った。

Ⅱ　調査研究事業

1　調査研究

(1) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究（担当：千葉悟志）

10 種を対象に行っている湿原に見られる植物のうち、開花個体に至っていないミズバショウについて形態観察を昨年度に引き続き継続して行った。その結果、ミズバショウは、生育は良好なものの発芽から 5 年を経過しても開花には至らないことが明らかになった。

リュウキンカについては、自生地である居谷里湿原で発芽時期の確認を行った。その結果、今年度は、３月上旬に発芽が生じていることが推測された。

エゾミソハギについては、昨年に引き続き異形花柱性について、湿原内を踏査した。その結果、中柱花のほかに長柱花 5 個体の生育を確認したが、短柱花は認めることができなかった。

	実施日	内　　容	参加者数
第 60 回	4 月 25 日	リュウキンカ、ミズバショウの訪花昆虫の観察（居谷里湿原）	4
第 61 回	8 月 22 日	エゾミソハギの花柱型の観察（居谷里湿原）	3
第 62 回	1 月 30 日	次年度調査の勉強会	3
第 63 回	3 月 6 日	リュウキンカの発芽の観察（居谷里湿原）	3
第 64 回	3 月 13 日	リュウキンカの発芽の観察（居谷里湿原）	2
第 65 回	3 月 22 日	リュウキンカの発芽の観察（居谷里湿原）	2
第 66 回	3 月 27 日	リュウキンカの発芽の観察（居谷里湿原）	3

(2) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測（担当：清水博文）

平成 22 年 9 月 22 日よりライチョウの生息域である爺ヶ岳に温度・湿度・日射量を計測するデータロガを設置して観測を継続している。年間の最高気温は、平成 24 年 7 月 16 日 11 時 40 分の 20.35007℃、最低気温は、平成 24 年 2 月 2 日 17 時 40 分の-22.68915℃であった。

2　共同研究及び調査研究の協力

(1) コア・サイエンス・ティーチャー養成（ＣＳＴ）（担当：小坂共栄）

ＣＳＴ養成拠点事業は子どもの「理科離れ」が指摘されている中で、理数系中核教員＝ＣＳＴの育成をめざすため信州大学と長野県教育委員会が平成 22 年から取り組みを開始し、現職教員のスキルアップのためのプログラムや教材の製作などを進めるものである。

今年度は大北地域の理科研究会の会合に出席し、ＣＳＴ事業の意義や目的、具体的事業内容等について解説し、理解を深めてもらった。また、大北地域内の小中学校毎に、野外での理科教材発掘のための調査を実施した。

成果は信州大学のホームページ（http://kyoushoku.shinshu-u.ac.jp/smap/）に掲載してある。

Ⅲ　教育普及事業

1　展示

(1) 常設展示

①展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,437 点（平成 25 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 814 点）

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
3F　展望室		「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点
2F　第 2 展示室　※[1]		「山岳の自然」コーナー	計 623 点
北アルプスのかたち	24 点	北アルプスの生いたち	80 点
里山から高山までの生物	235 点	ライチョウ	7 点
さわれる剥製	5 点	渓谷の生物	35 点
湖の生物	60 点	湿原の生物	55 点
剥製ライブラリー	102 点	パレットライブラリー	20 点
1F　ホール・特別展示室		「山と芸術」コーナー	計 61 点

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
絵画　※[2]	21 点	その他	19 点
ピッケル	21 点		
1F　第 1 展示室		「山と登山」コーナー	計 749 点
北アルプスの登山史	322 点	北アルプスの山小屋	46 点
登山の道具	152 点	遭難	57 点
エベレスト周辺の地形模型	39 点	日本人の海外登山	108 点
山のコラム	25 点		

※[1]　一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

※[2]　絵画作品については、特別展・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

②展示改修

a. 展示改修実施設計

展示改修実施設計業務はプロポーザルを行った後、随意契約により(株)乃村工藝社と大町市とで、平成 24 年 2 月 15 日～9 月 30 日の履行期間で委託契約を締結した。

・設計における基本的な考え方

動線を 3 階、2 階、1 階とし、博物館から眺望できる北アルプスの四季の美しい山容を導入とし、北アルプスの成り立ち、そこに生息する動植物の実態、山と人の関わりをテーマとして、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

展示テーマは「北アルプスの自然と人」とし、展示ストーリーではメインテーマに沿ったサブテーマを設けて展開する。

小学生などの子どもを中心とした市民および地域住民、市内を訪れる観光客や登山者を主な対象者とし、山に関する予備知識がない方でも十分に理解を深めていただけるものを目指す。

・展示構成のポイント

3 階は、山を臨む西側の展示スペースと、それ以外のスペースの性格を踏まえた配置とする。2 階・1 階の展示のつながりを重視し、展示のつながりを連想させる起点を展示化する。天空ラウンジとしての機能を持たせ、展示物等の高さや配置・形状を考慮する。

2 階は、階段、レクチャースペース、展示室への誘導をスムーズにする展示配置とスペース取りと形状に配慮する。カモシカはステージ展示により特徴を有効的に紹介する。ライチョウは山岳の自然の象徴ととらえ、生活史などを伝える。

1 階は「山と人との関わり」を物語るエピソード群をコア展示とし、時間軸を伴う「峠」や「登山史」は時代展示としてじっくり学習・鑑賞できる展示構成とする。

1 階ホールは来館者のすべての方が利用する空間として、コミュニケーション機能、こどもハンズオン機能をそろえる。

b. 展示改修施工

展示改修施工業務は随意契約により(株)乃村工藝社と大町市とで、平成 24 年 12 月 13 日～平成 26 年 3 月 30 日の履行期間で委託契約を締結した。

実施設計の内容を確認し、検証を行った。これに伴う一次資料（写真・図版）の入手や作成の準備に取りかかった。また、展示実物資料の確定とリスト製作を進めた。

(2) 企画展示

①スイス政府観光局・市立大町山岳博物館 共同企画展　ユングフラウ鉄道全線開通 100 周年記念

「スイス山岳観光の黄金期と日本人 ―その魅力と文化を伝えた人々―」（担当：関悟志）

a. 会　期：平成 24 年 7 月 14 日（土）～10 月 21 日（日）　※開催日数：延べ 93 日

b. 会　場：特別展示室及びホール

c. 主　催：スイス政府観光局　市立大町山岳博物館

d. 後　援：信濃毎日新聞社　朝日新聞松本支局　中日新聞社　讀賣新聞松本支局
毎日新聞松本支局　産經新聞社長野支局　大糸タイムス株式会社　民友信州
市民タイムス　FM 長野　SBC 信越放送　NBS 長野放送　TSB テレビ信州
abn 長野朝日放送　大町市有線放送電話農協

e. 概　要：アルプスを代表するスイスで最も有名な登山鉄道であるユングフラウ鉄道全線開通 100 周年（2012 年 8 月）を記念し、スイス政府観光局との共同企画による展覧会として開催した。本展では、スイス山岳観光の礎を築いたユングフラウ地方と、その地域での山岳観光の発展とともに敷設されていった登山鉄道の誕生に焦点をあて、スイス山岳観光の黄金期ともいえる当時から現在にいたるまでのスイス山岳観光のさまざまな魅力を伝えることを目的とした。あわせて、アルプスの山岳地域へ登山鉄道が伸びたことで世界各国の登山家がスイスに集うなかで、数々の日本人登山家もアルプスの峰々に登っており、明治 43（1910）年にユングフラウ（標高 4,158m）に登山して日本人初のアルプス 4,000m 峰登頂を果たした加賀正太郎や、大正 10（1921）年に当時未登攀だったアイガー（標高 3,970m）東山稜を世界で初めて登攀した槇有恒など、登山を通じてスイスの魅力と文化を日本に伝え、両国の文化交流の架け橋になった人々を紹介することを目的とした。

f. 展示資料：登山鉄道の誕生に焦点をあて、山岳観光の国スイスの魅力を写真パネルなどで紹介するとともに、加賀正太郎や槇有恒らスイスアルプスゆかりの日本人が使った登山用具などを展示し、両国の文化交流の架け橋になった人々を紹介。

g. 入館者：7,834 人（有料 7,069 人、無料 765 人）

h. 所　見：2012 年 8 月のユングフラウ鉄道全線開通 100 周年にあわせた企画展ということで、時期を得た実施であった。市民や近隣地域の方々、および市内を訪れた観光客や登山者に、スイス山岳観光の魅力を伝えるとともに、スイスアルプスに登った日本人登山家を紹介できたことは有意義であった。一方、「北アルプスの自然と人」をテーマに掲げる当館として、海外の山岳に関する事柄について、どのようにアプローチするのか明確にする必要があると感じた。

会場内のアンケート結果では、展示方法・資料・説明について「全体的によかった・部分的によかった」等の意見が大多数であり、観覧者の満足度は高かった。入館者数以外に、各種関連催しの参加者総数は延べ 259 人で、より多くの方々を対象にして展示関連の教育普及事業を展開することができた。こうした点での目的達成度は高かった。一方、期間中の入館者は、前年度比 76.7％減（H23 年度 10,215 人）、前々年度比 111.7％増（平成 22 年度 7,014 人）で、企画展が大幅な集客には直接結びつかなかったと思われる。

実施手法については、広報面で報道機関各社から名義後援をいただいた上、山岳雑誌で情報掲載や新聞・ラジオ等での特集企画をしていただいたほか、ポスターを印刷・配布することで、告知・周知を工夫して行った。また、期間中の展示にかかわる教育普及活動にオープニングセレモニー、ミュージアムトークとゲストトークショーを実施したが、展示内容を広く説明したりする機会として有効であった。あわせて、展示の情報蓄積・提供の面から、展示解説書の発行は効果的であった。コスト面については、参加者の負担金額 400 円（大人の通常入館料）に対して、参加者 1 人当りに要した事業費の単価は 81.6 円となり、効率性は高

かった。これらの点での効率性は高かったと感じる。一方、共同企画の打診があったのは2年以上前だが、実際に事業実施が確定したのが開催の半年前で準備期間があまりにも短すぎた。また、スイス政府観光局の担当者が海外出張で長期不在となり、打ち合わせや調整が十分行えなかったとともに、同局で作成することになっていたポスター・リーフレット原稿、解説パネル原稿、解説書原稿（一部除く）のデータが手元に届かずに作業が遅れる事態となった。これらの点から事業主体の妥当性については課題が残る。

i．関連事業

・オープニングセレモニー　平成24年7月14日（土）　玄関ほか
アルプホルン・エコー（代表 塚原 明水 氏）のメンバーによるアルプホルン演奏、あいさつ、テープカット、展示見学など実施　参加者：約50人（大人）

・ミュージアムトーク（延べ6日・全12回）
平成24年7月15日（日）、8月11日（土）・18日（土）、9月23日（日）、10月7日（日）・20日（土）　各日とも1日2回　ホール・特別展示室
学芸員が展示の見どころなどを解説　参加者：延べ120人（大人～子ども）

・ゲストトークショー「夢と冒険　第2の故郷スイスアルプス」（ゲスト：冒険家／株式会社モンベル代表取締役会長 辰野勇さん）　平成24年9月16日（日）　講堂
冒険家でアウトドアメーカー「モンベル」会長の辰野勇さんをゲストにお招きし、ご自身のアルプス登攀の経験や“第二の故郷”というスイスの魅力などについてご講演いただいた。当日は、モンベルのアウトドアグッズが当たる抽選会も実施　参加者：89人（大人～子ども）

j．その他

・展示解説書　印刷部数：1,000冊（会期中の配布数709冊、販売数121冊）

②市立大町山岳博物館・信州大学山岳科学総合研究所 共同企画展
山岳を科学するシリーズ②　小学生におくる企画展
「大地はなぞだらけ　フォッサマグナ・北アルプスおいたちのなぞ」

（担当：小坂共栄・千葉悟志）

a．会　期：平成24年10月27日（土）～12月28日（金）　開催日数：53日

b．会　場：特別展示室・ホール

c．概　要：私たちの住む大町市にあるフォッサマグナとは何なのか、またあの高い北アルプスはいったいどのようにしてあそこまで高くなったのか、そして、大地は今でも動いていることを、信州大学山岳科学総合研究所の最新の研究成果を紹介し、私たちの住む大地への関心や理解を深めていただくことを目的とした。

d．展示資料：パネル・動画・化石・岩石など実物を用いた展示。

e．入館者：　1,796人

f．所　見：本展は、小学5年生「流れる水のはたらき」および6年生「大地のつくりと変化」の授業に活用いただけたる内容であり、市内小学校の対象学年の全児童並びに近隣市町村の小学校に解説書を配布したところ、2校（美麻小学校・大町東小学校）が企画展を授業のなかで活用し、松川小学校からは教諭用に解説書の無料配布の希望があった。

本展の内容が教材としても、利用価値が高いと判断さたことによるものと思われる。

展示期間中にあわせて行った3回の学習会の定員に対する参加率は、1回目が110%、2回目が60%、3回目が110%（平均93.3%）であり、市内をはじめ、松本市・長野市・小布施町・安曇野市の広域からの園児・児童の参加もあり、関心が高いことがうかがえた。

さらに、12月16日に行ったギャラリートークは当初予定していなかった。そのため、広

報が短期間となってしまったが、それにもかかわらず、28 人の参加者を得られたことは、本展は、これまでに取り扱ったことのない内容であったが、子どものみならず、大人も高い関心を持っていることを示した結果だと考えられる。

i．関連イベント

・学習会

11 月 4 日（日）「宝石でペンダントづくり」　参加者：22 人

11 月 25 日（日）「鉱物のふしぎさがし」　参加者：12 人

12 月 16 日（日）「宝石でペンダントづくり」　参加者：22 人

・ギャラリートーク

12 月 16 日（日）　参加者：28 人

h．その他

・アンケートから、本展のように子供向けの企画展開催の要望が多く見られた。合わせて学習会やギャラリートークなどの参加・体験型を希望していることから、企画展の際には、そのような要素を取り入れることがよいと考えられる。要素を取り入れ、親子のニーズに応えることで、博物館は、身近で気軽に活用できる施設だという意識づけができ、非常に有効な手法であると思われることから、次回、子供向けの企画展を開催する際にはそのような点を重視して企画・立案を行うべきである。

・学習会の広報として、事前に申し込みが必要であることが明示されていなかったことから、飛び入りの参加者がわずかに見られた。また、開催時間内であれば、いつでも対応してもらえると思い来館された参加希望者もいたことから、申し込み方法等を明示することが必要であった。

・ギャラリートークは、大町市民が無料で入館できる第三日曜日の「家庭の日」に当たったため、多くの参加者を得るところのひとつの要因になったと思われ、イベントは、「家庭の日」あるいはその前日の土曜日に行うことで、より多くの参加者が得られるものと思われる。

・博物館は、これを知ってほしい、これを伝えたいと色々な手法を駆使して、来館者がなるべく理解しやすいような展示を行うように努めているが、アンケートに「館内が寒すぎて、展示をゆっくり見ることができなかった」との感想は、展示以前の問題であり、「館内が見る環境でない」ことを意味しており、早急に対策を講じ、改善すべきである。

・展示解説書　印刷部数：1,100 冊（会期中の配布数 640 冊、販売数 103 冊）

(3) 移動展示

①さんぱく☆ぎゃらりー「アニマルウォッチング」

（担当：関悟志・小嶋健太・戸谷諭美・尾関美穂）

a．会　期：第 1 回（通算 16 回）平成 24 年 6 月 26 日（火）～7 月 13 日（金）　※延べ 14 日間

第 2 回（通算 17 回）平成 24 年 10 月 23 日（火）～11 月 9 日（金）※延べ 14 日間

第 3 回（通算 18 回）平成 25 年 3 月 5 日（火）～3 月 22 日（金）　※延べ 13 日間

b．場　所：大町市役所 市民ホール

c．概　要：夏・秋・冬期の全 3 回開催。各回、飼育動物の写真パネル約 20 点などを展示。付属園の動物飼育スタッフがその日に撮影した飼育動物の写真を「今日のアニマルウォッチング」と題して、公式ホームページに掲載し、毎日更新している。この中からピックアップした写真を市役所市民ホールに展示することで、より多くの市民の方々に広くご覧いただくとともに、特別コーナーとして、付属園での出来事や活動などについて詳しく紹介。この展示

を通して、来庁者および市職員に野生動物やその保護に理解を深めていただき、付属園の事業へ関心を高めていただく機会とした。なお、本展は平成 19 年度から毎年開催（年 3 回）。

d. **所　見**：付属園では、希少野生動物繁殖事業、アルペン動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（大町市周辺で救護された野生動物の飼育）を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業（カモシカの飼育）を行っており、博物館全体の事業では大きなウェイトを占めている。こうした移動展示を行うことで、博物館への興味・関心が比較的高くなかった方々にも、付属園で行っている各事業を広く知っていただく機会となった。特に、生き生きとした野生動物の写真と、親しみを持って読んでいただけるコメントによって分かりやすく紹介することで、付属園の役割やそこで飼育している個々の野生動物の様子について、より深く知っていただけたと考える。

　さんぱく☆ぎゃらりーは 19 年度から実施し、毎年「アニマルウォッチング」を展示しており、本年度で 6 年目の実施となる。「アニマルウォッチング」については、平成 24 年度で一旦完了させ、次年度以降は付属園に関する教育普及事業全体を見直す中で今後の実施内容・手法等を検討したい。

②安曇野アートライン推進協議会「第 8 回安曇野アートライン展」への参加と協力

（担当：清水隆寿）

a. **会　期**：平成 24 年 11 月 23 日(金・祝)～平成 25 年 1 月 6 日(日)

b. **会　場**：国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉多目的ホール（安曇野市）

c. **概　要**：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを国営アルプスあづみの公園の穂高・堀金地区と大町・松川地区の 2 会場で展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。山岳博物館は穂高・堀金地区の会場に山川勇一郎作の「初夏林道」「秋色」「八ヶ岳の秋」「徳沢」「ケルン」「高峰スキー場」「高峰ゲレンデ」「別所」「菅平 枯梢」の 9 点を出品。

d. **展覧会入場者数**　〔穂高・堀金地区〕16,814 名
　　〔大町・松川地区〕11,820 名

2　教育普及活動

(1)学習会等の開催

①ふぞくえん動物写生大会（担当：清水隆寿・小嶋健太・戸谷諭美・尾関美穂）

a. **開催日**：平成 24 年 4 月 28 日(土)～5 月 6 日(日)(10 日間)

b. **場　所**：付属園

c. **共　催**：日本動物園水族館協会中部ブロック

d. **後　援**：日本動物園水族館協会

e. **参加者数**：99 人（園児 20 点、小学生 78 点、大人 1 点）

f. **概　要**：日本動物園水族館協会中部ブロックが目的としている児童・生徒の動物愛護精神を高め、描画教育並びに、文化の向上と親善をはかることをかんがみ、大町市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にして、動物を観察して親しみながら写生を楽しむ機会とした。作品は第 57 回中部ブロック動物園水族館写生大会への応募を行う。

g. **所　見**：日本動物園水族館協会が開催する同写生大会への参加は、山岳博物館としては本年で 26 回目となる。本年度の写生大会参加者内訳は、未就学児・保育園・幼稚園合わせて 20 名、小学生が 78 名と昨年度比 1 割強の参加者の減少となった。盛会時には 150 名を超える参

加者があったが、近年の生徒数の減少を考慮し、来年度以降これまで定数となっていた表彰者数も改めて行く必要を感じている。また館内議論の中で、動物写生画展自体の存続も議論されているところであるが、年間を通じてこれだけの市内の子供たちが博物館に集まる機会少なく、今後は写生大会と様々な関連イベントと組み合わせて開催することで魅力を高めて実施をしていきたい。

h. 関連イベント

・動物写生画展（参加作品の展示）

「大町山岳博物館　動物写生画展」として、参加作品すべてを 6 月 23 日（土）～7 月 8 日（日）（延べ 16 日間）に山岳博物館講堂で展示した。

・審査と表彰

5 月 29 日（火）に市内小中学校の先生 6 人による審査で、長野県知事賞ほか 33 点を選出し、博物館職員の審査で特別賞を 9 点選出した。写生画表彰式は 6 月 24 日（日）午後 4 時から山岳博物館講堂において執り行い、荒井教育長、宮野館長よりそれぞれ賞状と盾を授与した。

・展示「動物写真展 ～もっと近くで見てみよう～」

写生の参考になるよう動物の体の特徴的な部分などを写真と、見学通路からは観察が難しい動物の体の部分の写真を使って解説し、クイズ形式のめくりパネルを春の動物写生大会の会期中、講堂に展示した。

②付属園動物観察ツアー（担当：関悟志・小嶋健太・戸谷諭美・尾関美穂）

a. 開催日：平成 24 年 4 月 21 日（土）・22 日（日）・28 日（土）～5 月 6 日（日）

※延べ 11 日（22 回）

b. 場　所：付属園

c. 参加者数：延べ 151 人（大人 96 人、子ども 55 人）

d. 概　要：館職員（動物担当学芸員・動物飼育員）が来園者と一緒に園内を歩きながら、付属園で飼育しているカモシカをはじめとした野生動物の来園由来や、種としての特性などについての解説を行い、見学効果を高めるために実施した。

e. 所　見：動物観察ツアーは 18 年度から実施しており（21 年度までは山博おもしろミニゼミ「動物ウォッチング」として実施）、本年度で 7 年目の実施となる。昨年同様に 150 人を越える延べ参加者があり、付属園の役割や飼育する野生動物の特性について広く知っていただく大変良い機会となった。本事業を含め、来年度以降、動物飼育繁殖事業に関する教育普及全体の展開について検討したい。

③付属園スタンプラリー（担当：千葉悟志・戸谷諭美）

a. 開催日：①平成 24 年 4 月 28 日(土)～5 月 6 日(日)（9 日間）

②平成 24 年 8 月 1 日(水)～19 日（日）（19 日間）

③平成 24 年 11 月 3 日(土)・4 日（日）、6 日（火）～11 日（日）（8 日間）

b. 場　所：付属園

c. 参加者数：①：472 人　②：340 人　③：51 人

d. 概　要：付属園内の数カ所に、職員手作りのオリジナルスタンプを設置し、動物を観察しながらスタンプを探して集め、全てスタンプを集めた参加者には、参加記念とし、特大スタンプを押印した。

e. 所　見：平成 19 年の開始から 6 年が経過し、付属園に親しんでもらうという目的は達成したと思われるが、本事業を通じて付属園の機能や役割を十分に認識していただくという目的

は達成できていないと思われる。
また、夏および秋の参加人数が少ないことから、他事業と統合して効率的に事業の目的を達成できるように改善していく必要がある。

博物館が提供するリクリエーションと捉えた場合には、館内見学とあわせ保育園や公民館活動の利用度が高い、いっぽうで、付属園の機能や役割を十分に伝えられているかについては、不明確である。また、１回あたりの実施に準備期間が 5 日を要するため、準備にあたる飼育員に多大な労力が強いることとなり、施設管理・維持等の本来の職務に専念できない状況をつくり出してしまっていることから、効率性について検討する必要がある。

④小鳥の声を聞く会（担当：関悟志）

a．**開催日**：平成 24 年 5 月 13 日（日）

b．**場　所**：山岳博物館から鷹狩山山頂

c．**講　師**：長澤修介・腰原正己・鳥羽悦男

d．**協　力**：山岳博物館友の会

e．**参加者数**：31 人（大人 25 人、子ども 6 人）　※うち友の会員 12 人（ボランティア含む）

f．**概　要**：　野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力（豚汁ふるまい）を得て実施した。当日記録した鳥類は合計 34 種。アオゲラ、オオルリ、クロツグミ、サンショウクイ、ノジコなどを観察した。この観察会は今回で 32 回（過去の観察記録が残されている回数）を数え、鷹狩山における野鳥の生息動向に関する調査記録を蓄積することができた。
なお、前日夕方～夜には、友の会主催で観察会の事前学習会「ふくろうプログラム」が開催され、山岳総合センターで野鳥の生態や生息環境など全般についての座学、屋外で天体観察などを実施した（参加会員 14 人）。

g．**所　見**：専門の講師に解説していただきながら、鷹狩山の野鳥を目と耳から詳しく観察することができ、参加者には春の自然を満喫していただけた。同時に、昭和 49 年から記録している出現鳥一覧データを更新でき、博物館の貴重な記録となった。一方、参加者について、当日にキャンセルが 6 人いたが、結果として定員を超える人数であった。

昨年度まで定員 50 人設定であったが、現状の体制（講師 3 人、引率職員 3 人）では、1 班 10 人以内程度の 3 班編成が適当のため、今年度から定員 30 人として募集し、若干人数の定員オーバーは受入可能として運営面を改訂した。参加者への配布テキストは、一昨年度の講師からの意見をふまえ、当日の配布テキストを携帯しやすくするため、A4 判から A5 判に改訂した。また、参加者の増加を図るため、より効果的な告知・周知の方法を工夫し、各種広報・情報提供のほかに、今年度はリーフレット（A5 判・カラー用紙に印刷機で印刷）を市内小学校の全児童・生徒に学校を通じて配布した。同時に、同様のリーフレットを市内社会教育施設に設置した。結果として、参加申込者の周知媒体などは、広報おおまち 7 人、リーフレット（学校）4 人、がったつうしん 1 人、ホームページ 2 人、知人など 7 人、その他・不明 4 人、友の会ゆきつばき通信など 12 人であった。より効果的な告知・周知の方法の工夫が必要と感じた。

本事業は今年度で 30 数年目の実施となるが、来年度以降は館全体、あるいは動物に関する教育普及事業全体での位置付けや教育活動の趣旨(ねらい)や、より効果的な実施手法等を含めて事業展開全体を再検討する必要があると考える。

⑤さんぱくこども夏期だいがく（担当：千葉悟志・関悟志）

a．**開催日**：平成 23 年 8 月 2 日（土）・3 日（日）
8 月 2 日（午前 9 時 30 分～11 時 30 分）

ア「関隊長と行く　おおまちの登山史見て歩き隊」
　8 月 3 日（午前 9 時 30 分～11 時 30 分）
イ「教えて！ともちゃん先生　鉱物のふしぎを調べてみよう」

b. **場　所**：大町市内（ア）及び博物館講堂（イ）

c. **参加者数**：延べ 50 人（ア．7、イ．43 人）
　　達成率 125%（募集人員 40 名）

d. **概　要**：夏休みを利用し、学芸員及び専門員が岩石や山にまつわる地域の歴史を通して、地域について学んでいただくことを目的とした。また、小学生を博物館へ誘うことで、普段の生活のなかで、ふしぎなことや疑問に思ったことがあれば、気軽に博物館へ来て、見たり、聞いたり、お話ができるということを認識してもらい、博物館利用度を高め、身近な博物館づくりの効果を得ることを目的に実施。
　（ア）山にまつわる地域の歴史を知って、山岳文化都市 大町市の魅力を発見する。ウォークラリー形式で、市内に残る登山史など北アルプスの山岳文化ゆかりの場所 山岳文化遺産を歩いてめぐる。
　（イ）岩石のなかから鉱物をとり出したり、ルーペで鉱物をのぞいてみたり、宝石でペンダントをつくる。

e. **所　見**：イ．については、昨年の岩石同様募集定員をはるかに上回った。ア．については少数の参加ではあったが、アンケートから、こどもや保護者が地域の文化に対して興味・関心が高いことがうかがえ、全体として、このような機会を望んでいることがうかがえる。
昨年の改善点に「参加者名簿の誤字が見られた。正確な受付を心がける必要がある。また、受付時はひらがなあるいは漢字かを決める必要があった。」としたが、一部でひらがなによる受付が見られ、職員間で改善点を徹底すべきであった。今後は、ひらがなに統一して募集したほうが誤りがなくなると考えられる。
　昨年同様、募集に際して、市内小学生全員に行き渡るようチラシを作成し、学校を通じて配布し、周知をはかった。情報入手先はチラシによるものが最も多く、次いで広報・友人からの誘い、HP で、効果的な広報ができているものと考えられる。

⑥市民登山（担当：関悟志・清水博文）

a. **開催日**：平成 24 年 8 月 18 日（土）～19（日）

b. **場　所**：爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳

c. **参加者数**：11 人

d. **概　要**：市体育課社会体育係で開催した第 62 回大町市民登山のしおりの原稿協力と自然観察指導という立場で館職員が 1 名参加した。

e. **所　見**：1 日目の爺ヶ岳から冷池山荘間は、降雨に伴い落雷の危険性が高かったため、自然観察を行う時間は設けられなかった。翌日の鹿島槍ヶ岳周辺では、イワヒバリやホシガラス、ニホンザルなどを観察することを通して、高山環境で生活する動植物について考えることができたものと思われる。

⑦消しゴムスタンプを作ろう！（担当：関悟志・戸谷諭美・小嶋健太）

a. **開催日**：平成 24 年 11 月 23 日（金・祝）

b. **場　所**：講堂

c. **参加者数**：12 人（未就学児 2 人含む）　※このほか、付き添いの保護者（大人）8 人が参加〈計 20 人（子ども 12 人、大人 8 人）〉

d. **概　要**：付属園の飼育動物を絵柄にした消しゴムスタンプ作り。付属園では、飼育動物を絵

柄にしたオリジナルスタンプを押しながら園内を回る「ふぞくえんスタンプラリー」を春・夏・秋に開催している。「ふぞくえんスタンプラリー」で使われている“消しゴムスタンプ”を参加者自身で作成していただき、付属園や飼育動物への関心をさらに高めていただく。

e. **所　見**：募集記事が掲載された「がったつうしん」発行後、「広報おおまち」等の記事掲載前には、ほぼ定員の申し込みとなり、関心の高さがうかがえた。この催しは、小学生を対象に付属園や飼育動物への関心を高めていただくことが目的だが、単なる学習会や説明会という方法ではなく、子どもが気軽に楽しみながら参加体験できる工作教室という方法で、間口を広く角度をかえたアプローチから実施した。前年度の改善点をふまえ、付属園の役割・機能や野生動物との接し方などを記した付属園紹介リーフレット（A4 判色紙に印刷機で印刷し三ッ折りにしたもの）を参加者に配布しで、閉会時に付属園の役割や飼育動物についての説明を行なったが、終了後、付属園を見学して帰る参加者が多数いた。結果として、参加者には工作作品の完成という満足を得てもらうと同時に、絵柄にした付属園の飼育動物や付属園の役割について身近に感じてもらうひとつのきっかけとなったと考える。

　本事業は 22 年度に初めて実施し、今回で 3 回目。今年度をもって一旦完了とし、今後、動物飼育繁殖事業に関する教育普及全体の展開について検討したい。

⑧親子探鳥会（冬鳥の観察会）（担当：関悟志）

a. **開催日**：平成 24 年 12 月 9 日（日）

b. **場　所**：木崎湖周辺

c. **講　師**：長澤修介・腰原正己・鳥羽悦男

d. **参加者数**：17 人（大人 11 人、子ども 6 人）

e. **概　要**：野鳥を中心とした自然観察会。冬季は湖や河川に多くのカモ類など水辺の鳥が集まり、林の中は落葉により木々の枝にとまっている小鳥たちの姿を見つけやすいバードウォッチングに適した季節であり、カモ類などの観察のほか、植物の観察などを行った。例年に比べ、目にした鳥全体の数は少なかったものの、当日記録した鳥類は一昨年、昨年とほぼ同じ合計 25 種。オオバン、キンクロハジロ、カイツブリ、ヨシガモなどのほか、今回新たにカワガラスを観察した。この観察会は平成 15 年度以降毎年実施し、今回 10 回目を数え、木崎湖周辺における野鳥の生息動向に関する調査記録を蓄積することができた。

f. **所　見**：専門の講師に解説していただきながら、木崎湖畔の水辺の鳥を中心とした野鳥を詳しく観察することができ、参加者には冬の自然を満喫していただけた。同時に、平成 15 年から記録している出現鳥一覧データを更新でき、博物館の貴重な記録となった。なお、今回の募集定員については、例年の参加状況をふまえ、これまでの 30 人から 20 人に変更して募集しようと当初予定していた。しかし、長野県地方事務所環境課より、今回の観察会を県自然保護レンジャーの研修の機会として登録者へ参加を呼び掛けたいとの申し入れがあり、レンジャー約 30 人の参加を見込んでいるとのことで、募集定員を例年の 30 人から 50 人に増加設定した。しかし、その後、今回はレンジャーの研修会とは位置付けられず、自己研修の機会としてチラシ配布するのみとなった。これによって、結果として定員の 3 割強の参加者数となってしまったが、レンジャーを除く今回の一般参加者は 15 人で、当初予定の定員 20 人でみると 75％の達成率となっている。参加者の増加を図るため、より効果的な告知・周知の方法を工夫が必要と感じた。

　本事業は今年度で 10 年目の実施となるが、来年度以降は館全体、あるいは動物に関する教育普及事業全体での位置付けや教育活動の趣旨(ねらい)や、より効果的な実施手法等を含めて事業展開全体を再検討する必要があると考える。

⑨松ぼっくりツリーを作ろう！（担当：関悟志・戸谷諭美・尾関美穂）

a．開催日：平成 24 年 12 月 15 日（土）

b．場　所：講堂

c．参加者数：子ども 5 人　※そのほか保護者の大人 3 人含め計 8 人

d．概　要：付属園内で集めた松ぼっくりを使ったクリスマスツリー作り。付属園内に落ちている松ぼっくりを有効利用して、参加者にオリジナルクリスマスツリーを作っていただいた。手作り工作を楽しみながら、付属園の飼育動物の中からそれぞれお気に入りの動物を見つけることで、その動物へ愛着と関心を持ち、さらに野生動物を身近に感じていただくきっかけを提供することを目的とした。

e．所　見：募集記事は館公式 HP・市 HP・アートライン HP、「広報おおまち」、「がったつうしん」に掲載したが、募集定員の 3 割程度の参加結果となった。この催しは、幼児から小学生を対象に付属園や飼育動物への関心を高めていただくことが目的だが、単なる学習会や説明会という方法ではなく、子どもが気軽に楽しみながら参加体験できる工作教室という方法で、間口を広く角度をかえたアプローチから実施した。前年度の改善点をふまえ、付属園の役割・機能や野生動物との接し方などを記した付属園紹介リーフレット（A4 判色紙に印刷機で印刷し三ッ折りにしたもの）を参加者に配布しで、開会時に付属園の役割や飼育動物についての説明を行なったが、終了後、付属園を見学して帰る参加者もいた。結果として、参加者には工作作品の完成という満足を得てもらうと同時に、絵柄にした付属園の飼育動物や付属園の役割について身近に感じてもらうひとつのきっかけとなったと考える。

　本事業は 22 年度に初めて実施し、今回で 3 回目。今年度をもって一旦完了とし、今後、動物飼育繁殖事業に関する教育普及全体の展開について検討したい。

⑩大町山岳文化研究会（担当：清水隆寿）

同研究会は、山岳博物館友の会を主軸にして広く一般市民の方々にも参加を募り、「山岳」にテーマに置いて、北アルプスの登山史や地形・地質、雪形、あるいは現在の登山が抱える課題、自然保護など広範な人文・自然科学といった学問を横断して、会員みずからが地域を考え、互いに学習を深め生涯学習を推進していく場として、平成 20 年 7 月より活動を開始した。

本年で 5 年目となるが、4 月 5 日に 8 名の参加で、本年度の第 1 回目（第 44 回）として本年度のテーマについて論議を行った。しかし、テーマが絞り切れず、以後中断している。平成 25 年 3 月現在の会員は 19 人である。

（２）学校との連携・融合（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数	指　導
5 月 16 日	カワニナ学習会（大町東小周辺）	大町東小 3 年	44	清水博文
5 月 18 日	遠足 付属園見学	美麻小 1・2 年	16	関
5 月 24 日	見学実習	東京ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｱｰﾄ専門学校 1・2 年	45	戸谷
5 月 25 日	総合的な学習（美麻中）	美麻中 1 年	12	清水博文
6 月 6 日	自然観察学習　動植物について（青木湖キャンプ場）	大町西小 5 年	50	清水博文
6 月 15 日	登山事前学習 展示説明	大町高 1 年	161	千葉・関
6 月 27・28 日	職業体験学習　動物飼育	第一中 2 年	2	戸谷・尾関
6 月 28 日	自然観察学習　動植物について（青木湖キャンプ場）	池田小 5 年	57	清水博文

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数	指　導
6月29日	登山事前学習 展示説明	第一中2年	106	清水隆寿･千葉･関
6月29日	総合的な学習　動物について展示説明	美麻中1年	7	清水博文
7月6日	総合的な学習　自然について	仁科台中1年	30	清水博文
7月13日	総合的な学習　自然について	仁科台中1年	8	清水博文
7月23･24日	職業体験学習　動物飼育	小谷中3年	1	小嶋・戸谷
7月24日	トンボ学習会（大町東小周辺）	大町東小3年	44	清水博文
9月4・5日	職業体験学習　動物飼育	仁科台中2年	2	小嶋・戸谷
9月5日	総合的な学習　大町のパンフレットづくりについて	仁科台中1年	4	宮野
9月5日	総合的な学習　トンボについて（唐花見湿原）	仁科台中1年	4	清水博文
9月25日	総合的な学習・社会科学習 土地利用	大町北小3年	75	清水隆寿･千葉･関
10月5日	学校との連携授業　理科	大町南小4年	73	宮野・清水博文
10月11日	学校との連携授業　理科	大町西小4年	48	宮野・清水博文
11月28日	学校との連携授業　理科	美麻小4年	12	宮野・清水博文
11月30日	学校との連携授業　理科	大町北小4年	72	宮野・清水博文
12月11･12日	職業体験学習　動物飼育	大町北高1年	2	小嶋・戸谷・尾関
2月5日	学校との連携授業　社会科	大町南小4年	73	清水博文・関
2月15日	学校との連携授業　社会科	大町東小4年	38	清水隆寿・関
2月19日	学校との連携授業　社会科	美麻小4年	12	清水隆寿・関
実施回数：26回（延べ30日）		学校数：13校（延べ26校）	人数合計：998人（延べ1,005人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（担当：関悟志）

a．**実施日**：上記のとおり　※10～2月の間に、市内5小学校により延べ7日(回)実施

b．**場　所**：理科…第2展示室・講堂・付属園、社会科…第1展示室・展望室

c．**参加者数**：市内小学生328人（4年生）　※このほか各小学校教諭引率

d．**概　要**：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成22年度から2ヶ年、大町南小学校をモデル校に4年生の理科授業（動物）を年1回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、本年度は新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施した。これにより、実施校数を広げるとともに複数の教科の学習プログラムを作成して実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

・連携授業：プログラム1　理科・4学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

・連携授業：プログラム2　社会科・4学年「郷土に伝わる願い」（学習素材：百瀬慎太郎）

e．**所　見**：本年度から実施希望校を募り、本格実施した。実施に際し、市内小学校の理科担当教諭等が集まる市科学振興会理事会にて本事業の事前説明を行ったほか、市内校長会で説

明依頼を行い、実施希望校の受け付けを行った。その結果、市内小学校全 6 校のうち、5 校（八坂小学校以外）から希望があり、計 7 回実施した。過去の反省点などを活かした形で内容を改善して作成してきたプログラムとワークシートによって効果的に実施できたので、必要かつ有効な事業と考える。

今後は、本年度希望がなかった学校（1 校）にも実施していただけるように働きかけ、市内小学校全 6 校で完全実施していただけるようにしたい。そして、博物館を利用した各教科の授業を小学校に定着させたいので、今回の改善点を加味した内容で来年度以降も引き続き拡充・継続して実施したい。ただし、25 年度は展示改修工事（11～3 月）により館内で実施できないため、出張授業としての対応も検討する。

(3) 学芸員実習の受入（調整：関悟志）

期　日	実 習 者	人員(人)	指導
8 月 1 日(水)～8 月 12 日(日) 計 12 日間	筑波大学生命環境学郡生物学類 4 年 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科 4 年 信州大学理学部物理科学科 4 年	3	宮野･清水博文･小坂･清水隆寿･千葉･関
8 月 4 日(土)～8 月 13 日(月) 計 10 日間	東京農業大学生物産業学部生物生産学科 3 年	1	同上

博物館法第５条（学芸員の資格）第１項第１号の規定により、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での学芸員実習（博物館実習）は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

市内出身あるいは県内在住の学生を中心に実習の受け入れを行っているが、今回は県外出身・在住の学生が半数であった。これは、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したためで、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。一方、当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯教育・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の 1 日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

(4) 山岳図書資料館の利用（調整：清水隆寿・関悟志）

開館日数	閲覧者			資料貸出点数	
	市内	県内	県外		
94 日	53 人	50 人	60 人	16 件	79 点
	計 163 人				

(5) 共催事業

①雪形まつり（担当：清水隆寿）

第１１回北アルプス雪形まつりに併せて、山岳博物館では実行委員会に加わり、雪形ウォッ

チング部門の展示及び企画を担当した。

a. **会　期**：平成 24 年 5 月 8 日(火)～5 月 27 日(日)（20 日間）

b. **会　場**：キャラリーい～ずら(二階展示場)

c. **見学者数**：約 300 人

d. **概　要**：キャラリーい～ずらの展示場で、雪形写真パネルの展示と雪形ビデオ上映をし、「雪形写真展」を実施し解説を行った。

d. **関連事業**

・雪形講演会　5 月 27 日(日)
国際雪形研究会の納口恭明氏による雪形講演会「「国際雪形研究会」における「雪形」って知ってますか？」を開催　参加者：12 人

・「雪形ウォッチング」　5 月 13 日（日)、19 日（土)、20 日（日)、26 日（土)、27 日（日）
北アルプス各地の雪形現地見学会　参加者：39 人

③ 信州・大町　山の子村キャンプ　福島の子どもたち保養プログラム（担当：宮野）

福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子とも達に、心身の保養をしていただく環境を整えて、大町市に迎え、地域の子ども達や住民との交流を図ることを目的とした信州･大町 山の子村キャンプ実行委員会に加わり､博物館の見学､鷹狩山での学習会、さんぱくこども夏期だいがくへの参加対応、くろよんダム見学の手配と引率を担当した。

a. **会　期**：平成 24 年 8 月 1 日(水)～8 月 7 日(火)

b. **会　場**：旧山の子村を中心に、山岳博物館、長野県山岳総合センター、大町市総合福祉センター、鷹狩山、ぽれぽれ野の花託老所、大町総合病院、木崎湖、市内商店街、くろよんダム、薬師の湯

c. **参加者**：小学生 20 人、中学生 1 人、保護者及びスタッフ 3 人

d. **概　要**：宿泊は旧山の子村の小屋と長野県山岳総合センターとを組み合わせた。プログラムは実行委員の得意とする分野を企画し運用する方法と、既存の行事に参加する方法をとった。希望者には大町病院にて血液検査と触診による甲状腺検査を行った。

d. **所　見**：子どもたちは、充実した時を過ごすことができたようで、やまびこ祭りに参加したり、市内商店街を訪ねてサービスを受けたり、大町の小学生とキャンプを楽しんだりと、見知らぬ土地の方との人間関係を築き上げたようである。子どもたちの感想としては楽しさだけでなく、嫌いな野菜が食べられるようになったことや、虫が平気になったことなどがあり、保護者からは良い体験をして成長した姿で戻ってきた旨のたよりをいただいた。

(6) 各種観察会・学習会の協力（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	主　催	参加者	指　導
4 月 21 日	信州 山の自然楽入門 （長野県山岳総合センター）	長野県山岳総合センター	30	宮野
5 月 12 日	ふくろうプログラム （長野県山岳総合センター）	山岳博物館友の会	16	関
6 月 23 日	自然ふれあい講座	長野県環境保全研究所	20	千葉
6 月 25 日	初心者のための山野草講座	平公民館	18	千葉
6 月 27 日	親子教室	常盤公民館	44	関
6 月 28 日	大北市町村教育委員会連絡協議会総会（大北農協会館アプロード）	大北市町村教育委員会連絡協議会	50	小坂

期　日	内容（館外の実施場所）	主　催	参加者	指　導
7 月 28～29 日	夏のキャンプ（山の子村）	山岳博物館友の会	30	清水博文
8 月 8 日	信州自然学　展示説明	信濃教育会	41	清水隆寿・千葉・関
8 月 10 日	夏休み特別企画　虫かごづくり(大町市児童センター)	大町市児童センター	24	清水博文
8 月 10 日	楽しみながら科学を学ぼう　ネイチャーゲーム(大町北小児童クラブ)	大町北小児童クラブ	40	宮野
8 月 25 日	ぽれぽれ野の花　夏分校（木崎湖畔北村キャンプ場）	NPO 法人ぽれぽれ野の花	30	宮野
8 月 29 日	親子教室	社公民館	31	関
9 月 6 日	美麻高齢者学級　植物について（美麻公民館）	美麻公民館	35	千葉
9 月 20 日	すくすく広場	大町公民館	41	関
10 月 18 日	第 53 回長野県老人クラブ大会（大町市文化会館）	大町市老人クラブ連合会	1,000	小坂
10 月 20･21 日	放送大学面接授業　フィールドで学ぶ山岳科学と防災（市内現地ほか）	放送大学長野学習センター	12	小坂
10 月 27 日	カマキリの生活、八坂の哺乳動物についてなど	育てる会八坂学園	3	清水博文
11 月 17 日	山の文化 in Nagano	長野県山岳協会･日本山岳文化学会・日本ヒマラヤ協会	40	清水隆寿
実施回数・団体数：18 回（延べ 20 日）		団体数：18 団体（延べ 18 団体）	人数合計：1,505 人（延べ 1,547 人）	

(7) テレビ・ラジオへの出演（調整：清水博文）

放送日	放送局名	番組名	形　態	内　容
6月14日～	市ケーブルテレビ	週刊情報番組　きらり☆STATION	収録による出演	山岳図書資料館（関）
2 月 5 日	ＳＢＳ（静岡）ラジオ	ほのぼのワイド　中村こずえの smile for You	電話による生出演	ライチョウ（宮野）

(8) 収蔵資料などの貸出（調整：関悟志）

期　日	用　途	貸出先	貸出資料・点数
4 月 1 日～　※長期貸出	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製 1 点
7 月 2 日	情報誌掲載	市民タイムス	山岳フォトコンテスト入選写真著作権
7 月 23 日～8 月 3 日	企画展示	市生涯学習課	山川勇一郎絵画計 49 点
7 月～	参考資料使用	石岡繁雄の志を伝える会	ナイロンザイル事件資料複写データ計 5 点

期　日	用　途	貸出先	貸出資料・点数
8 月 3～15 日	企画展示	市生涯学習課	山川勇一郎絵画計 51 点
8 月 28 日	TV 番組使用	長野朝日放送	松濤明資料複写データ 1 点
8 月～平成 25 年 8 月	法人誌掲載	個人	山岳写真データほか計 4 点
9 月 11 日～11 月 10 日	企画展示	名古屋大学博物館	田中阿歌麿写真パネル 1 点
9 月～	ウェブサイト掲載	Discover Tenkara	遠山品右衛門使用釣竿ほか写真データ計 3 点
10 月 23 日～11 月 30 日	企画展示	箕輪町郷土博物館	金剛杖ほか計 2 点
11 月 3～7 日	文化祭展示	八坂公民館	スイス写真パネル 31 点、スイス紹介パネル一式
11 月 19 日	書籍掲載	幻冬舎	切れたナイロンザイル写真データ 1 点
11 月 21 日	書籍掲載	オフィスエム	雪形写真 1 点
11 月 23 日	書籍掲載	個人	外観写真ほかデータ計 2 点
12 月 18 日～1 月 22 日	書籍掲載	岩波書店	松濤明資料複写データ 1 点
12 月 25 日～2 月 15 日	雑誌掲載	東京新聞 岳人	アルピニズム展図録掲載写真計 3 点
1 月 5 日～4 月 14 日	企画展催し使用	松岡美術館	オシドリ写真データ計 2 点
2 月 16 日	パネル展示使用	長野県北安曇地方事務所林務課	カモシカほか写真データ計 9 点
平成 25 年春～	施設紹介展示	ミュゼグラム	外観写真データ 1 点
平成 25 年春～夏	パンフレット掲載	㈱トラベルプラザあづみ野店	展望室からの展望ほか写真データ計 6 点

このほかにも社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

3　執筆・出版

(1) 出版

①新規出版物

a.『山と博物館』（担当：清水隆寿）

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月『山と博物館』に改題）。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む）。

平成 25 年 3 月 31 日現在、購読者数は 459 名で有料 164 人、無料 273 人

巻号	月	頁	題　　名	著 者
57	4	①	山岳図書資料館の開館に寄せて	宮野典夫
4	月	②～④	岳人冠松次郎と大町對山館―大正四年七月劔岳登山の記録	中野守久

巻号	月	頁	題　　名	著 者
575	5月	①	山岳総合センター　指定管理で生まれ変わります	杉田浩康
		②～④	有明山山麓に分布するあがりこ型樹形のサワラ林 ―その成立過程と史的考察―	鈴木和次郎
576	6月	①	共同企画展の開催にあたって	牛越徹
		②～④	共同企画展「スイス山岳観光の黄金期と日本人 ―その魅力と文化を伝えた人々―」展示資料解説	関悟志
577	7月	①	絵とは？	羽田智千代
		②～④	北の安曇野の自然と子供たち　自然体験が育むもの　―美しいもの、未知なるもの、神秘なものに目を見張る感性を引き出したい―	倉科和夫
578	8月	①	立山連峰に現存する「氷河」	福井幸太郎
		②～④	立山連峰の氷河と万年雪	福井幸太郎
579	9月	①	さんぱくこども夏期だいがく	千葉悟志
		②～④	キノコ展　達人に聞く	千葉悟志
5710	10月	①	博物館標本から読み解かれるもの	河合久仁子
		②～⑥	一人の採集人が遺したもの　～アメリカ・スミソニアン協会国立自然史博物館と大町市のつながり～	河合久仁子
5711	11月	①	山博と子供たち	丸山優子
		②～⑥	山岳を科学するシリーズ②　小学生におくる企画展大地はなぞだらけ フォッサマグナ・北アルプスおいたちのなぞ	小坂共栄
5712	12月	①	伝統に学ぶ　輪カンジキ作り	清水隆寿
		②～④	厳冬期の黒部・立山　―遭難と踏破の足跡―	小林茂喜
581	1月	①	巳年雑感	長沢武
		②～④	白馬のスキー伝来とそのあゆみ	丸山庄司
582	2月	①	清音の滝	清水隆寿
		②～④	幕末から明治におけるイギリス外交官・アーネスト・サトウの足跡と業績	金子靖夫
583	3月	①	きらり輝く！山岳博物館の未来（これから）	清水博文
		②～④	これからの山博（さんぱく）　～きらり輝く山岳博物館を築くため、いまこそ協働の力で、共有の喜びを	市立大町山岳博物館

（敬称略）

ｂ．年報（担当：清水博文）

『平成 23 年度年報』（発行日：平成 24 年 3 月 15 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、42 頁、単色刷り）を編集・発行した。

②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 25 年 3 月 31 日現在）

書　　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	市立大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート（第 1 展示室部分）	〃	随時更新	館内にて販売中
H24 企画展　大地はなぞだらけ	〃	平成 24 年	〃
H24 企画展　スイス山岳観光の黄金期と日本人	〃	〃	〃

書　　名	発行先	発行年	備　考
北アルプス登山史資料2 ―白馬岳周辺登山史―	〃	〃	〃
H23 企画展　山岳を科学する 2011	〃	〃	
書　　名	発行先	発行年	備　考
H21 企画展 高山の自然は今…	〃	平成 21 年	館内にて販売中
展示案内　北アルプスの自然と人	〃	平成 17 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	平成 14 年	書店にて販売中
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	平成 13 年	〃
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	〃	平成 4 年	〃
カモシカ 氷河期を生きた動物	〃	平成 3 年	〃

4　インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉悟志）

博物館の企画展やイベントをアップするほか､｢今日の北アルプス｣､｢アニマルウォッチング｣を毎日、更新し、『飼育員の奮闘記』は隔週で話題を提供した。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2) 外部ウェブサイト（担当：関悟志）

市、安曇野アートラインの各ウェブサイトを管理し、掲載情報を逐次更新していく。なお、展示や催しの各情報は、基本的に「広報おおまち」の掲載内容や「情報提供書」の記載内容とした。

①市ウェブサイト

施設概要、企画展・特別展のお知らせ、イベントのお知らせについて掲載し、開館時間・休館日・利用方法等の案内、現在開催中または今後開催予定のイベントや企画展や特別展の情報を随時発信している。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/ctg/00027010/00027010.html

②安曇野アートラインウェブサイト

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では､平成 17 年 5 月にウェブサイトの運用を開始し、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルしているが、平成 24 年 7 月にサイトの全面リニューアルを行った。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。

URL：http://www.azumino-artline.net/oomachi/

5　広報

(1) 大町博物館連絡会発行博物館めぐり案内図（担当：清水博文）

大町博物館連絡会は市内加盟館 10 館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで平成 24 年 5 月に 5 万部発行したものを、近隣のホテル・旅館・観光案内所などに配布した。

6　友の会（担当：千葉悟志）

大町山岳博物館友の会は大町山岳博物館を通して、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的で、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加し協力する団体の支援。

（1）組織

①役員

a．会　長　宮澤洋介

b．副会長　有川美保子、西沢泰夫

c．運営部　部長：川崎晃　副部長：宮田京子

部員：塩瀬淳也、丸山優子、栗林稔、中畑清貴、朝重孝治、高野淳子、瀬戸口三栄子、横沢裕美、関悟志

d．編集部　部長：丸山卓哉　　部員：宮澤洋介、岑村隆、五十川渡

e．事務局　仙波美代子（こまくさ担当）、千葉悟志

f．アドバイザー　川崎裕子

g．監　査　倉科恵一、越山頼子

h．顧問　千葉彬司、長沢正彦

②構成（平成 25 年 1 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ファミリー会員	252 人（71 ﾌｧﾐﾘｰ）	個人会員	59 人	学生会員	1人
賛助会員	1 団体･1 人	終身会員	2 人	名誉会員	3 人
合　計	319 人				

（2）運営部

①行事

活動日	参加	主な内容
2 月 5 日	20 人	冬の自然観察会　カンジキを履いて動物達の森を歩いてみよう（森のくらしの郷）
3 月 11 日	32 人	平成 24 年度総会（大町市社会福祉センター）
	31 人	記念講演会「湿原の魅力―過去・現在・未来」倉科和夫さん 「湿原で見られる植物の生活史」千葉悟志さん
5 月 12 日	16 人	小鳥の声を聞く会　ふくろうプログラム（長野県山岳総合センター）
5 月 18～21 日	15 人	屋久島「縄文杉・宮之浦岳」登山
6 月 24 日	24 人	史跡・美術館・博物館めぐり「軽井沢～植物園と野鳥の森」（軽井沢植物園・軽井沢野鳥の森）
7 月 28～29 日	10 人	夜も探検・山の子村キャンプ（山の子村）
9 月 1～2 日	13 人	秋の自然観察登山「魅力の餓鬼岳・餓鬼のコブ・唐沢岳」
10 月 6 日	14 人	塩の道を歩くⅩⅡ　切久保より佐野坂へ
11 月 17 日	10 人	伝統技術を学ぶ「かんじき」を作る

(3) 編集部

①「ゆきつばき」の発行

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第 41 号	3 月 11 日	次代を担う子供たちのための山博と友の会 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感

①「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
151 号	2 月 25 日	行事案内（小鳥の声を聞く会・軽井沢～植物園と野鳥の森）報告（総会ほか）
152 号	4 月 17 日	行事案内（小鳥の声を聞く会・軽井沢～植物園と野鳥の森）報告（小鳥の声を聞く会ほか）
153 号	6 月 15 日	行事案内（夜も探検・山の子村キャンプ・秋の自然観察登山「魅力の餓鬼岳・餓鬼のコブ・唐沢岳）博物館企画展（スイス展・動物写生画展）博物館行事（こども夏期だいがく・スタンプラリー）報告（小鳥の声ほか）
154 号	8 月 28 日	行事案内（塩の道を歩く・かんじきを作る）博物館企画展（キノコ展・大地はなぞだらけ）報告（軽井沢・山の子村キャンプほか）
155 号	12 月 25 日	行事案内（総会・講演会）報告（秋の自然観察登山・塩の道・かんじきを作るほか）

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 24 年 4 月 13 日(金)～8 月 31 日(金) ※経営難に陥ったため、早期閉店

1 階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供

(5) サークル活動

①烏帽子の会

山歩きのサークル。平成 25 年 1 月 31 日現在、会員 23 名。

月　日	内　　容	参加	月　日	内　　容	参加
3 月 4 日(日)	入笠山(富士見町)	11 人	11 月 10 日(土)	大姥山(大町市)	6 人
6 月 9 日(土)	富士見町周辺散策)	9 人			
7 月 15 日(土)	爺ヶ岳(大町市)	7 人	2 月 23 日(土)	真木(小谷村)	7 人
9 月 29 日(土) 30 日(日)	船窪小屋(大町市)	6 人			

③ ボランティアサークル

山岳博物館の活動を支援するグループ。平成 25 年 1 月 31 日現在、会員 48 名。

月　日	内　　容	参加
3 月 11 日(日)	平成 24 年度総会および記念講演会設営など	32 人
4 月 4～13 日(水～金)	山岳図書資料整理作業(※延べ人数)	10 人
4 月 14 日(土)	山岳図書資料整理作業・資料館清掃	6 人

月　日	内　　容	参加
4 月 22 日(日)	湿原植物園の除草ほか	7 人
4 月 28～30(土～月)、5 月 3(木)、5･6(土･日)	動物写生大会･スタンプラリーの受付、館内ガイド(※)	6 人
5 月 6 日(日)	JR 信濃大町駅周辺栽培展示にかかるサクラソウ運搬(駅へ)	9 人
5 月 12･13 日(土･日)	小鳥の声を聞く会開催にともなう豚汁の下ごしらえと提供(※)	6 人
5 月 14(月)、20･21 日(日･月)	栽培展示にかかるサクラソウの灌水	3 人
5 月 27 日 (土)	JR 信濃大町駅周辺栽培展示にかかるサクラソウ運搬(山博へ)	9 人
6 月 3 日(日)	針ノ木慎太郎祭り自然観察班サポート	3 人
6 月 24 日(日)	研修会(軽井沢植物園･軽井沢野鳥の森)	24 人
7 月 8 日(日)	館内ガイド･湿原植物園の除草ほか	7 人
7 月 22 日(日)	行事開催にかかる会場設営(山の子村キャンプ場草刈り)	9 人
8 月 5 日(日)	湿原植物園の除草ほか	2 人
8 月 29 日(水)	湿原植物園の除草ほか	2 人
9 月 9 日(日)	湿原植物園の除草ほか	8 人
9 月 16 日(日)	スイス展ミュージアムトーク会場設営ほか	6 人
9 月 17 日(月)	館内ガイド	1 人
10 月 14 日(日)	湿原植物園の除草ほか	5 人

7　ライチョウ会議（担当：関悟志・清水博文）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学教育学部　中村浩志教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。また、館長が構成員となっている。構成員の運営によって年 1～2 回程度会議を開催(構成員として館長出席)し、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第 13 回ライチョウ会議岐阜大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して年１回開催している。事務局として当館では、大会実行委員長ならび実行委員会事務局と連携して、名義後援依頼や報告書作成などの事務を行っている。この大会では、各分野の研究者･行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつなげるために毎年開催されている。

13 回目となる本大会は 2 回目の岐阜県開催で、前回同様に高山市が開催地となり、実行委員会を組織して前年度から準備が進められてきた。平成 24 年 10 月 13～15 日のエクスカーション

を含め 3 日間にわたる大会には、全国の研究者や機関、国・県など行政関係者、一般公聴者など延べ 274 人が参加。各山岳でのライチョウの生息状況や、日本のライチョウの近似種であるスバールバルライチョウの各動物園での飼育状況などについて、最新の報告が行われた。また、環境省からはレッドデータのランクアップに伴うライチョウ保護増殖計画についてふれられたほか、ライチョウの生息環境を脅かすニホンジカやイノシシなどへの対策や、絶滅を防ぐための人工的な保護のあり方などの課題が示され、出席者から活発な意見が交わされた。当日、当館職員はライチョウ会議事務局として、会場準備や受付、過去の報告書バックナンバーの販売などを行なった。また、2 日目には、ワークショップの第 3 部「ケージ飼育による域内保全の取り組みと今後の進め方」の座長を当館館長の宮野が務めた。

次回大会は平成 25 年 10 月 12～13 日に山梨県南アルプス市内を会場として開催する運びとなり、第 14 回ライチョウ会議山梨大会実行委員会（実行委員長 村山力氏〈日本野鳥の会甲府支部〉）を中心に準備を進めている。

8　ボランティア活動（担当：宮野典夫）

博物館友の会にボランティアサークルが組織されたので友の会関係は除く

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(日)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 60 人

（敬称略）

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1　動物飼育繁殖（担当：清水博文・関悟志・小嶋健太・戸谷諭美・尾関美穂）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成 24 年度策定）。

○生体展示…生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
○教育普及への活用…飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
○傷病鳥獣の救護…傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
○希少種の保護…希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
○施設整備の充実…付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではカモシカを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

今後の課題として、前記の 3 つの事業を柱とする動物飼育繁殖事業について、これまでの事

業全体を見直した上で、今後将来へ向けた事業全体と各事業の中長期及び単年度ごとの実施計画を検討・作成して事業実施に取り組む必要がある。さらに、それらの各事業計画にしたがって、必要課題と要求課題を整理し、現代の社会情勢と市民ニーズに対応した新しい付属園のあり方を明確にした上で、動物飼育舎やカモシカ園フェンス、倉庫などのバックヤード、標示看板や園内路等を含めた施設修繕・改修等の付属園整備計画を作成し、中長期の計画的な付属園整備を実施する必要がある。

（1）希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシといった希少野生動物の繁殖に取り組んできている。現在、いずれの動物についても繁殖は行っていない。

①飼育動物の増減等

a．繁殖個体

なし

b．死亡個体（傷病鳥獣で一時救護時に死亡した個体は除く）

・ニホンカモシカ（オス・愛称ナカツナ）　平成 24 年 7 月 18 日死亡確認。死因：老齢個体であり、老衰に起因する死亡と推測される（推定年齢 23～24 歳）。平成 16 年 6 月 5 日に大町市平中綱より傷病鳥獣として救護・収容した個体。

・キジ（メス）　平成 24 年 5 月 25 日死亡確認。死因：不明。平成 18 年 8 月 6 日に付属園内で繁殖・誕生した個体。

・キジバト（性別不明・愛称うずこ）　平成 25 年 3 月 28 日死亡。死因：右下肢の外傷（外部からの動物による捕食と推測される）。平成 22 年 9 月 11 日に池田町会染より傷病鳥獣として救護・収容した個体。

c．転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカを富山市ファミリーパーク（メス・愛称さくら、平成 15 年～）と、埼玉県こども動物自然公園（オス・愛称クロベ、平成 21 年～）に各 1 個体貸出し中。

d．今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として保護収容個体を用い繁殖計画を行いたい。今後も友好提携を結んでいるアルプス動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等も行いたい。

②飼育動物（平成 25 年 3 月 31 日現在）　（単位：個体）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	3(1)	4(1)		6(2)	トビ			(8)	(8)
ホンドタヌキ	(1)	1		1(1)	フクロウ			(1)	(1)
ホンドギツネ	(1)			(1)	オオコノハズク			(1)	(1)
ハクビシン	(2)	(1)		(3)	チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
					キジバト			(2)	(2)
					キジ	1(1)	1(1)		2(2)
					カルガモ			(1)	(1)
					マガモ	(1)			(1)
					モズ		(1)		(1)
計	2(5)	5(2)		7(7)	計	1(3)	1(3)	(13)	2(19)

・哺乳類　2（4）種・7（ 7）個体
・鳥類　　1（9）種・2（19）個体　　合計　3（13）種・9（26）個体
※（N）の数は救護動物の種数・個体数（なお、種数の計は救護動物以外に同種がいる場合は重複あり）

上記の他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホールや付属園内においてイモリなどの両生類や爬虫類、スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた展示を行った。

(2) アルプス動物園交換動物

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルプス動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和 60 年（1985）から平成 22 年（2011）まで飼育していたが、現在は飼育個体なし。

(3) 傷病鳥獣救護

長野県から平成 24 年度野生傷病鳥獣救護事業委託を受け､付属園では大北地域における野生傷病鳥獣救護施設として、ケガや病気の野生動物を収容している。なお、県からの同事業委託は平成 9 年度より毎年受託している。

①収容個体数

・哺乳類　2（4）種・3（8）個体
（ニホンカモシカ 3(3)・ホンドタヌキ(1)・ホンドギツネ(1) ハクビシン(3)・ニホンリス 1・アブラコウモリ 2)
・鳥類　13（9）種・20（20）個体
（トビ(8)・フクロウ 1(1)・オオコノハズク(1)・チョウゲンボウ(2)・キジバト 2(3)・キジ 1(2)・カルガモ 1(1)・マガモ(1)・モズ(1)・ハクセキレイ 1・ムクドリ 1・スズメ 2・ツバメ 5・イワツバメ 1・シジュウカラ 1・キジバト 2・カワラバト 2・ヒヨドリ 1・アマツバメ 1・フクロウ 1・オオミズナギドリ 1・ミソサザイ 1)
・合計　15（13）種・23（28）個体
（そのうち死亡個体 10(2)・放鳥獣個体 13・他施設への転出個体 0・現在飼育中個体 1(26)）
※（N）の数は前年度からの継続収容個体数（なお、種数の計は継続個体に同種がいる場合は重複あり）

②所見

死亡個体のほとんどは収容時に処置を行っても手遅れか重症の個体であり、救護収容の当日または数日後には死亡している。こうした傾向は過去の実績からも顕著であり、早期での獣医師による診療処置が不可欠と考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことが多く、人工哺育した個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期救護収容個体となる傾向がみられる。

2　植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

なし

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、トキソウ・ミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、サワギキョウ、アカバナ

① 概要

コマクサ園・湿原植物園のほか、付属園内でササユリの栽培展示を行っている。開花期を中心に解説パネルを準備し、生活史や生物間関係について紹介。

Ⅴ　その他

1　各種委員などの委嘱

大町博物館連絡会・会長（宮野典夫）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（宮野典夫）
高山植物等保護対策協議会中信地区・監査（宮野典夫）
大町市観光協会・理事（宮野典夫）
長野県博物館協議会・監査（宮野典夫）
長野県科学振興会大町支部・理事（千葉悟志）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野典夫）
大町市防災会議委員（小坂共栄）
長野県市民参加型モニタリング手法検討委員（千葉悟志）
長野県版レッドリスト改定委員会植物専門部会員（千葉悟志）
ライチョウ会議構成員（宮野典夫）
針ノ木慎太郎祭実行委員（宮野典夫）
大町桜まつり実行委員（宮野典夫）
北アルプス雪形まつり実行委員（宮野典夫・清水隆寿）

2　アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

3　信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係

にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」(同協定書より抜粋)

Ⅵ　運営

1　組織および職員構成

(1) 組織

大町市教育委員会
- 教育長 — 教育次長
  - 顧問
  - 山岳博物館協議会
  - 館長 — 副館長
    - 庶務
    - 学芸員
    - 嘱託職員（専門員）
    - 臨時職員（庶務・飼育員・資料整理

(2) 顧問

千葉彬司

(3) 協議会委員

学校教育関係者：北澤佳伸

社会教育関係者：宮澤洋介、松原繁、横川仁、鈴木啓助

学識経験者：今滝一登美、森一弘、佐藤悟、高田正樹、宮崎亮、藤沢秀

(4) 職員

①配置

館　長　宮野典夫

副館長　清水博文（庶務兼務）

学芸員　清水隆寿、関悟志（人文科学系）　千葉悟志（自然科学系）

専門員　小坂共栄（自然科学系）

臨時職員　柏原愛美、北村洋子（資料整理、庶務）
小嶋健太、戸谷諭美、尾関美穂（動物飼育）
齋藤みづき、鈴木奈美（資料整理）

①　人事異動

退　職　館　長　宮野典夫（平成 24 年 3 月 31 日）

再任用　館長(嘱託)　宮野典夫（平成 24 年 4 月 1 日）

新　規　資料整理、庶務（臨時職員）柏原愛美（平成 24 年 4 月 1 日）
北村洋子（平成 24 年 7 月 4 日）
資料整理（臨時職員）　齋藤みづき（平成 24 年 10 月 1 日）
鈴木奈美（平成 24 年 10 月 1 日）

退　職　動物飼育（臨時職員）　小嶋健太（平成 25 年 3 月 30 日）
資料整理、庶務（臨時職員）柏原愛美（平成 24 年 6 月 14 日）
資料整理（臨時職員）　齋藤みづき（平成 25 年 3 月 30 日）
鈴木奈美（平成 25 年 3 月 30 日）

2　協議会

(1) 第 1 回協議会

①**日時**：平成 24 年 10 月 5 日（金）13：30～15：30

② **場所**：山岳博物館　講堂

出席者：藤沢秀、松原繁、宮澤洋介、今滝一登美、高田正樹、宮崎亮、北澤佳伸

③ **内容**：・北澤委員に委嘱書交付

・報告

平成 23・24 年度の事業報告

本館耐震診断結果報告

・協議

展示改修事業について

「山岳博物館のこれからを考える会」からの提言に対する今後の対応について

3　耐震診断

(1) 耐震診断施工業者

使命競争入札により荒山設計室と委託契約を締結し、平成 24 年 8 月 1 日から 12 月 25 日の業務期間とした

(3) 耐震診断

① 結果

コンクリート圧縮試験結果、良質なコンクリートが打設されていた。

コンクリートの中性化試験の結果、鉄筋位置まで進行していないため、中性化影響は少ない。

不同沈下測定の結果、一定方向の傾斜は見られないことから、不同沈下の可能性は低い。

柱傾斜測定の結果、一定方向の傾斜がないことから、施工誤差と判断する。

鉄骨の錆の発錆を、一部のジョイントのボルト部分で確認した。

アンカーボルトは、一部でシングルナットであったり、ねじ山の出がないものがあった。

② 評価

東西方向では、3 階が偏心しているため形状指標が低減し、構造耐震判定指標を下回る結果となった。

東西方向では、2～1 階が一部で極脆性柱があり靭性が小さいが保有せん断力が大きいため、構造耐震判定指数を上回る結果となった。

南北方向では、各階共保有せん断力が大きいため、構造耐震判定指数を上回る結果となった。

1 階便所の間仕切り部分で地震時の応力が短期許容応力度を上回っている。

(4) 補強

① 計画

保有せん断力向上のために、3 階とその下の柱にＲＣ巻き立て補強を行う。

3 階の開口閉塞補強を行う。

3 階屋根のパラペットの転倒を防ぐために鉄骨置屋根と接続させる。

3 階鉄骨置屋根に壁プレース・屋根プレースを増設する補強を行う。

アンカーボルトでシングルナット、またはねじ山の出の長さが不足しているものは、全て溶接をかける。

1 階便所間仕切壁のコンクリートブロック壁は転倒の恐れがあるため解体し、軽量間仕切り等による改修を行う。

② 改修後の評価

3 階は補強を行うことにより、構造耐震判定指標を満足する。

4　アルプス動物園創立 50 周年記念式典への参列

(1) 行程

9 月 20 日（木）成田空港よりウィーン経由でインスブルック市へ

9 月 21 日（金）アルプス動物園のミヒャエル・マーチス園長のご案でインスブルック市長への表敬訪問の予定が、重要会議が延びてクリスティーネ・オピッツ・ブレーラー市長にはお会いできず、緑地製作担当の局長にあいさつ。オピッツ市長にお渡しいただくよう、花束と大町市在住の彫刻家髙橋貞夫さんのこまくさの作品を贈呈。フンガーブルクバーン（ケーブルカー）とノルトケッテンバーン（ロープウェイ）にて市街地眺望。ホーフブルグ王宮、宮廷教会、アルプス山岳協会博物館、チロル民族芸術博物館などを視察。

9 月 22 日（土）アルプス動物園創立 50 周年記念式典に参列。

9 月 23 日（日）ジャンプ場と州立博物館フェルディナンデウムを視察。標高 2334 メートルのハーフェレーカー山への登頂。アルプス動物園の視察。アルプス動物園主催の歓迎会。シュター会長には牛越市長と竹村市議会副議長から髙橋貞夫さんの山の木彫作品を贈呈し、山岳博物館宮野館長からはアルプス動物園園長に同じく髙橋貞夫さんの山の作品を贈呈。アルプス動物園の創立 50 周年を契機として、大町市及び大町山岳博物館との間に友好関係を育む新たな誓いを結びたいとの提案があり、牛越市長とファンシュター会長との間でサインをかわし証書を交換。

9 月 24 日（月）南チロル（イタリア）の世界遺産であるドロミテ山塊を遠望。ブドウ畑とワイン醸造場の視察。メスナー山岳博物館視察。

9 月 25 日（火）インスブルック空港よりウィーン経由で帰国。

(2) 参列者

牛越徹大町市長、竹村武人大町市議会副議長、宮野典夫山岳博物館館長、久保田肇秘書係長

(3) 式典における市長祝辞（全文）

アルプス動物園創立 50 周年、誠におめでとうございます。姉妹都市、大町市を代表いたしましてご祝辞を申し上げます。

アルプスの麓、すばらしい自然環境のもとで山岳動物の研究と、市民への普及に大きな業績を積んでこられたアルプス動物園の関係者の皆様に、心より敬意とお祝いを申し上げます。

生きた動物を管理することと、見学されるお客様に楽しんでいただくことの両方に配慮しながら 50 年という節目を迎えるには、関係者のこの動物園に対する熱意の賜であり、またこの間、多くのご苦労があったことと思います。

新しい施設を次々にオープンさせ、しかもその展示方法は自然の地形を生かし、動物たちが生活している環境を再現しており、アルプス動物園は日本でも人気のある動物園のひとつです。

また、過去にアルプスに生息していた動物にも焦点を当てたアルプス動物園の研究のコンセプトは世界中から高く評価されており、私達もうれしく思います。

さて、インスブルック市と大町市の関係を述べさせていただきます。

1984 年３月、アルプス動物園がニホンカモシカを希望され、大町市の山岳博物館がこのお申し出に対応することとなりました。そして、アルプス動物園からは交換としてアルプスマーモットを贈られることになりました。

この動物を通じての交流が縁となり、1985 年２月 20 日にワイーヤーブルグ宮殿において、インスブルック市と大町市、アルプス動物園と大町山岳博物館の代表者４者が友好提携協定書への調印をいたしました。

この時の署名者の１人、大町市長　高橋恭男は私の父であり、現在 91 歳で元気に暮らしております。

その後、双方の式典への参加や、大町市民によるインスブルック市への訪問、小学校の子どもたちの文通による交流が行われました。

さらに、大町山岳博物館へのヨーロッパオオライチョウやシャモア、シベリヤオオヤマネコの贈呈などが行われました。主なものだけでもこの 28 年間に 26 回もの交流があり、双方の人と人との交流のほか、動物が親善の大役を果たしました。

大町市と大町山岳博物館のご紹介をいたします。

大町市は日本の中央に位置する日本アルプスの麓にある山岳都市です。市街地の西に約 3,000 メートルの高山が連なり、街並みの近くには高瀬川という大きな川が流れています。この風景はインスブルック市ととてもよく似ています。

大町市内にはＢＣ6,000 年代の古代遺跡があり、また、15 世紀に建てられた木造のお寺が現存し、古くから人の営みがありました。

大町山岳博物館は 1951 年 11 月に市民の力で創設した山に関する博物館です。博物館に付属して動物の飼育施設があり、ニホンカモシカなどを飼育しています。昨年は創立 60 周年を迎えました。

昨年３月に東日本で起きた地震と津波では、世界中の方から、とりわけオーストリアの皆さまから多くのお見舞いと温かいご支援を賜り、日本人を代表して深くお礼申し上げます。

幸い大町市は震源から遠く離れていたため、被害は全くありませんでした。また、現在、被災地では、震災にも負けず、復興に向かって力強く取り組んでおります。

アルプス動物園から被災地の福島に贈られたカワウソが震災の後、上野動物園に一時避難し、その後、元気な赤ちゃんが誕生したとお聞きしました。うれしい出来事です。

このようにオーストリアと日本、インスブルックと大町市、アルプス動物園と大町山岳博物館は深い絆で結ばれています。

これから先、いつまでも友好の精神が引き継がれ、さらに人や動物、文化の交流が盛んになることを願い、お祝いの言葉とさせていただきます。

5　入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校	小中	大人	高校	小中			65歳以上	小中生		
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2,032	146	819	2,988	21,020
24	9,818	144	640	2,344	498	587	14,001	1,255	94	783	2,132	16,133
計	1,288,866	19,640	192,379	595,824	84,214	281,071	2,461,964	97,767	1,954	7,199	106,920	2,568,884

(2) 平成24年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
4	808	11	32	209	0	12	1,072	154	24	26	204	1,276
5	1,253	12	72	279	1	177	1,794	168	17	9	194	1,988
6	699	23	6	154	162	122	1,166	71	2	123	196	1,362
7	1,254	5	92	302	321	130	2,104	92	9	39	140	2,244
8	1,933	38	262	503	11	90	2,837	180	15	8	203	3,040
9	1,081	3	24	384	0	3	1,495	110	9	113	232	1,727
10	1,226	6	39	221	0	4	1,496	172	4	136	312	1,808
11	641	5	34	116	0	34	830	143	6	173	322	1,152
12	197	0	13	28	0	5	243	99	2	27	128	371
1	151	1	5	42	0	3	202	7	2	2	11	213
2	170	1	8	30	0	3	212	61	2	123	186	398
3	405	9	53	76	3	4	550	37	2	4	43	593
計	9,818	114	640	2,344	498	587	14,001	1,255	94	783	2,132	16,133
前年	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2,023	146	819	2,988	21,020
前年度比	79%	90%	75%	79%	152%	42%	78%	64%	65%	96%	73%	77%

(3) 平成 24 年度の開館日数

317 日

6　平成 24 年度予算・決算

(1) 歳入　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	計
当初予算	6,246,000	70,000	200,000	1,000,000	550,000	8,066,000
決算額	5,122,800	62,400	247,000	1,000,000	551,544	6,983,744
	△1,123,200	△7,600	247,000	0	364	△1,082,256

(2) 歳出　（単位：円）

項目	一般職員 人件費	管理運営 一般経費	教育普及 事業	調査研究 事業	資料収集 保管事業
当初予算	28,557,000	21,455,000	5,633,000	546,000	2,608,000
決算額	28,842,156	20,438,358	4,614,238	294,102	4,039,240
	285,156	△1,016,642	△18,762	△251,898	1,431,240

項目	動植物飼育 栽培事業	展示改修事業	耐震事業	繰越明許費創立 60 周年記念事業	計
当初予算	8,846,000	10,340,000	1,700,000	7,000,000	86,685,000
決算額	8,266,550	10,050,000	1,207,500	6,489,000	84,241,144
	△579,450	△290,000	△492,500	△511,000	△2,443,856

Ⅶ　関係条例規則

1　市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地　方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物　館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管　又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。　ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるとき　は、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受け　なければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委　員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設　置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者

(3) 学識経験のある者
(4) 公募による市民等
3　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委任）
第11条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。
附　則
1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和29年条例第18号）第5条の規定に　より委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。
附　則（昭和61年3月24日条例第8号）
この条例は、昭和61年4月1日から施行する。
附　則（平成元年3月24日条例第7号）
この条例は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成4年3月31日条例第8号）
この条例は、平成4年4月1日から施行する。
附　則（平成5年12月24日条例第32号）
この条例は、平成6年4月1日から施行する。
附　則（平成12年3月29月条例第13号）
この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附　則（平成13年3月27日条例第13号）
この条例は、平成13年4月1日から施行する。
附　則（平成17年12月6日条例第30号）
この条例は、平成18年1月1日から施行する。
附　則（平成24年3月26日条例第3号）
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第5条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1人	400円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 (30人以上の場合をいう)	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第2（第6条関係）

望遠鏡使用料	1回	100円

2　市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）
第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（職務）
第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。
2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。
3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。
4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。
5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。
（休館日）
第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。
(1)　毎週月曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）
(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）
（開館時間）
第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。
（観覧券の交付）
第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。
（観覧料の減免）
第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
（博物館資料の利用等）
第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。
（入館制限等）
第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2)　管理上支障があると認められるとき。
(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。
（資料の寄贈及び寄託）
第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。
2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。
附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）
　この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）
　この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。
附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）
　この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
様式（省略）

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月策定

1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。

③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。

④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。

⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

①観光客･登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について､関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。

②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。

③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3　平成 24 年度からの山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集
調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。
③体制づくり
国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。
(2)資料の収集・整理、保管の推進
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。
①収集・整理の推進
早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。
②収集の範囲
山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。
③保存・管理の推進
収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。
(1)調査研究の成果および収集資料の活用
調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。
①調査・研究の成果活用
調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。
②収集・保管の成果活用
収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。
③保護・保全への貢献
調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。
④体制づくり
山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。
(4)教育普及活動の推進
地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。
①生涯教育・社会教育の推進
博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。
②学社連携・融合の推進
学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをする。
③協働の推進
国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。
(5)付属園（動植物園）の充実
付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培･飼育し､生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。
①生体展示
生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

Ⅸ　施設

1．敷地面積

41,575.69 ㎡（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 ㎡、民有地：3,082.54 ㎡

2．本館建物

(1) 構造：鉄筋コンクリート造　地上 3 階 地下 1 階
(2) 竣工：昭和 57 年 5 月 31 日竣工
(3) 面積：建築面積　　1,280.9 ㎡
　　延べ床面積 2,207.0 ㎡
(4) 床面積表　　（単位：㎡）

1 階　1244.9					
名　称		面積	名　称		面積
1	ホール	205.5	13	倉 庫	8.8
2	喫 茶	74.2	14	E. V	5.1
3	講 堂	110.2	15	給湯室	3.0
4	便 所	8.1	16	倉 庫	3.5
5	映写室	5.4	17	EV 機械室	6.0
6	準備室	9.1	18	特別展示室	70.4
7	事務室	51.0	19	第 1 展示室	290.0
8	館長室	18.6	20	収蔵庫	104.0
9	宿直室	32.5	21	荷解作業室	41.3
10	便 所	29.0	22	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	16.4
11	書 庫	16.7	23	燻蒸室	12.3
12	更衣室	14.6	廊下、階段等		109.2

2 階　686.1					
名　称		面積	名　称		面積
24	ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ	113.6	28	収蔵庫	42.1
			29	便 所	18.2
25	研究室	69.6	30	第 2 展示室	290.0
26	図書室	34.8	31	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	14.9
27	倉 庫	16.0	廊下、階段等		86.9

3 階　116.8				
名　称		面積	名　称	面積
32	展望室	94.6	階段	22.1

地階　159.2				
名　称		面積	名　称	面積
33	機械室	118.8	階段	17.4
34	車 庫	23.0		

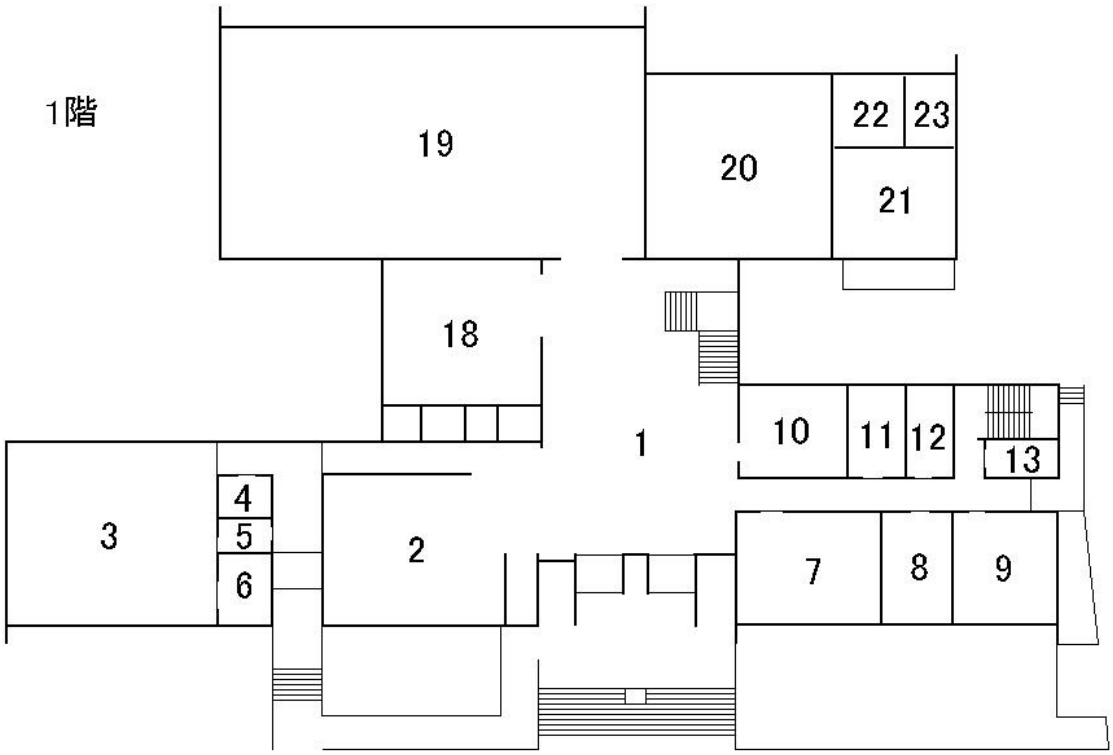
3．付属施設

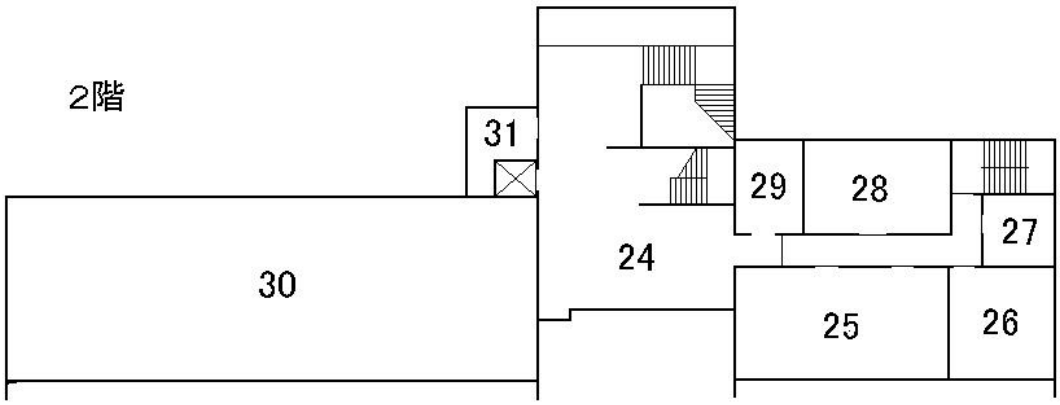
(1) 付属園（本館隣）
①施設の概要　　敷地面積：39,875.92 ㎡
②建物の概要（建設年度順）　※B-5・8・10 については放飼場の面積を除く

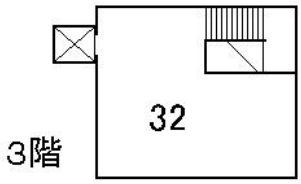
施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）	
B-1	28.20（S38→S55 移設）	A-6	42.85（S49）	B-6	18.99(S61)	B-9	34.83(H3,4)
B-2	13.93（S38→S55 移設）	A-7	20.26（S51）	B-7	46.5(S61)	B-10	5.2（H3）
A-1	33.44（S42,43）	A-8	11.55（S53）	B-8	26.92(H1)	B-11	67.65(H4)
A-3	15.24（S48）	B-3	22.62（S53）	B-6	18.99(S61)	B-12	44.88(H7)
A-4	16.20（S48→S55 移設）	B-4	39.63（S54,55）	B-7	46.5(S61)	A-10	52.00(H21)
A-5	33.44（S49）	A-9	15.70(S57)	B-8	26.92(H1)		

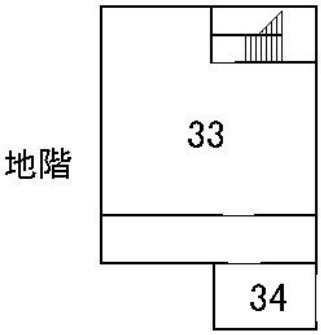
(2) 山岳図書資料館（敷地内）
①施設の概要
・構造・規模：鉄骨造　地上 2 階
・竣工・開館：平成 24 年 3 月 2 日竣工　平成 24 年 4 月 20 日開館
・各　面　積：敷地面積 498.21 ㎡　建築面積 59.96 ㎡
　　延床面積 117.45 ㎡（1 階 58.725 ㎡、2 階 58.725 ㎡）
・設備・備品：ハンドル式移動書架（各種）20 基　固定式書架（各種）24 基　ほか

4. 本館平面図


1階
19
20
22
23
21
18
1
10
11
12
13
3
4
5
6
2
7
8
9


2階
31
29
28
27
24
30
25
26


32
3階


地階
33
34

5. 付属の建物図

X　利用案内（平成 25 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
2. 休館日　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
   ※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休
3. 交通　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシー5 分、徒歩 25 分
   車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
   （北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
   ※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）
4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン
   入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能
6. 所在地および連絡先
   〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
   （標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
   TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
   E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
   URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 24 年度　年報
平成 25 年 8 月 31 日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL:0261-22-3030/FAX:0261-22-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。